

再評価の結果

(新幹線鉄道整備事業)

平成12年12月22日

事業名	東北新幹線盛岡～八戸間(フル規格)					
所在地	岩手県、青森県		事業主体	日本鉄道建設公団		
事業概要	盛岡～八戸間：工事延長 約97km 停車場 盛岡駅、沼宮内駅、二戸駅、八戸駅					
事業期間	平成3年度から概ね10年		総事業費	4,840億円(H9.4価格)		
既投資額	3,869億円		事業進捗率	80%		
目的・必要性	新幹線鉄道による全国的な鉄道網の整備を図り、もって国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興に資するものである。					
費用対効果分析	貨幣換算した主要な費用		建設費、維持更新費等			
	貨幣換算した主要な便益		時間短縮効果による県内総生産の増加額			
	費用の生じる時期		平成3年度			
	効果の生じる時期		概ね10年後			
	社会的割引率	4%	現在価値化の基準年度	平成12年度		
	総費用	4,980億円	総便益	8,080億円		
	B / C	1.6	B - C	3,100億円	E I R R	6.5%
	定量的・定性的に考慮した費用・効果		効果：運行安定性・安全性の向上、消費エネルギーの低減等			
事業の実施の目途・供用の目途	「整備新幹線の取扱いについて(平成12年12月18日政府・与党申合せ)」において、平成14年末の完成を目指すこととされている。					
代替案の有無	なし					
新たなコスト縮減の可能性	引き続き、設計施工方法の見直し等のコスト縮減施策を実施していく。					
事業実施によるメリット・デメリット	当該新幹線が整備されることにより、東北地方の沿線地域内外間を結ぶ輸送サービスが改善し(所要時間の短縮、運行安定性の向上等)、生活行動圏の拡大が図られる。また、これらを通じて、沿線地域において県内総生産の増加などの整備効果が見込まれる。					
対応方針	現在においても費用対効果が十分に認められることから事業を継続する。					
日程・手続	変更を要するものはない。					
再評価委員会等の結論・意見	継続が妥当である。					
備考						

再評価の結果

(新幹線鉄道整備事業)

平成12年12月22日

事業名	九州新幹線新八代～西鹿児島間(スーパー特急)					
所在地	熊本県、鹿児島県		事業主体	日本鉄道建設公団		
事業概要	新八代～西鹿児島：工事延長 約127km 停車場 新八代駅(仮称)、新水俣駅(仮称)、 出水駅、川内駅、西鹿児島駅					
事業期間	平成3年度から概ね10年		総事業費	6,080億円(H9.4価格)		
既投資額	3,764億円		事業進捗率	62%		
目的・必要性	新幹線鉄道による全国的な鉄道網の整備を図り、もって国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興に資するものである。					
費用対効果分析	貨幣換算した主要な費用		建設費、維持更新費等			
	貨幣換算した主要な便益		時間短縮効果による県内総生産額の増加額			
	費用の生じる時期		平成3年度			
	効果の生じる時期		概ね10年後			
	社会的割引率	4%	現在価値化の基準年度	平成12年度		
	総費用	6,090億円	総便益	9,390億円		
	B / C	1.5	B - C	3,300億円	E I R R	5.9%
	定量的・定性的に考慮した費用・効果		効果：運行安定性・安全性の向上、消費エネルギーの低減等			
	事業の実施の目途・供用の目途代替案の有無	「整備新幹線の取扱いについて(平成12年12月18日政府・与党申合せ)」において、フル化し平成15年末の完成を目指すこととされている。				
	新たなコスト縮減の可能性	引き続き、設計施工方法の見直し等のコスト縮減施策を実施していく。				
事業実施によるメリット・デメリット	当該新幹線が整備されることにより、九州地方の沿線地域内外間を結ぶ輸送サービスが改善し(所要時間の短縮、運行安定性の向上等)、生活行動圏の拡大が図られる。また、これらを通じて、沿線地域において県内総生産の増加などの整備効果が見込まれる。					
対応方針	現在においても費用対効果が十分に認められる。一方「整備新幹線の取扱いについて(平成12年12月18日政府・与党申合せ)」を踏まえ、フル化することとする。					
日程・手続	平成13年度予算の成立後にフル化の工事実施計画の認可を行う予定である。					
再評価委員会等の結論・意見	継続が妥当である。					
備考						